

Collegium Musicum del Cervo
 コレギウム・ムジクム・テル・チェルボ
第7回定期演奏会

土曜の午後はステキにクラシック

8月24日(土)

14:00開演(13:30開場)

入場無料

加古川ウェルネスパーク
 アラベスクホール

加古川市東神吉町天下原370
 TEL: 079-433-1100

J.M. クラウス

劇音楽「オリンピア」VB 33 - 序曲

W.A. モーツァルト

交響曲第38番 二長調「プラハ」K.504

G. パイジェロ

歌劇「セビリアの理髪師」序曲

F.J. ハイドン

交響曲第99番 変ホ長調 Hob.I:99

後援 加古川市教育委員会
 加古川フィルハーモニー管弦楽団

お問合せ 079-425-9724 (青山)

ホームページ

<http://collegium-musicum-del-cervo.net/>

f コレギウム・ムジクム・テル・チェルボ

※小さなお子様とご一緒に鑑賞いただける
 チャイルドルームもございます。
 お気軽にご来場ください♪



■JR・バス

JR 加古川駅下車、神姫バス約20分「ウェルネスパーク」下車

■車

加古川バイパス「加古川西ランプ」より北へ約1km、
 「東神吉西」交差点を右折し東へ約1.2km、
 ウェルネスパーク案内板を左折し北へ約0.9km。
 山陽自動車道「加古川北IC」より南へ約6km、
 「東神吉西」交差点を左折し東へ約1.2km、
 ウェルネスパーク案内板を北へ約0.9km

Profile

コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ (Collegium Musicum del Cervo)

兵庫県加古川市を拠点として、2012年に誕生。20代から60代までの幅広い年齢層のメンバーで構成される室内合奏団。

加古川の旧表記「鹿兒川」にちなみ、イタリア語で「鹿の音楽集団」と命名。通称、“チェルボ”(鹿)。

モーツァルトやハイドンなどの古典派の作品を主なレパートリーとし、メンバーが互いに議論することで作品の解釈を深め、アマチュアでありながら質の高い音楽作りを目指す。現在メンバーは23名(ヴァイオリン8名、ビオラ3名、チェロ3名、コントラバス1名、フルート2名、オーボエ1名、クラリネット2名、ファゴット1名、ホルン2名)。

Notes

劇音楽「オリンピア」VB 33- 序曲 (J.M. クラウス)

クラウスは1756年ドイツで生まれ、スウェーデンで活躍した作曲家で、スウェーデンのモーツァルトとされています。音楽家以外に、劇作家、著述家、画家としても活動していました。

劇音楽とは、オペラのこと、題名のオリンピアとは、フランスの哲学者ヴォルテールが書いた作品で、これを基にオペラ作曲家のガスパーレ・スポンティーニが3幕からなるオペラを作り、序曲(この曲)をクラウスが作りました。

クラウスは、長調が偏重された時代にもかかわらず短調を主調にした曲を多く書いています。

交響曲第38番 二長調「プラハ」K.504 (W.A. モーツァルト)

オペラ「フィガロの結婚」がチェコのプラハで大ヒットを収め、これにより招待されたモーツァルトが、1787年1月に同地で初演したのがこの曲であり、「プラハ」というニックネームでよく親しまれている作品です。中でもメヌエット楽章を欠いていることが大きな特色として挙げられますが、曲全体で充実度と均整が巧みに保たれています。1楽章にはオペラ「ドン・ジョヴァンニ」を予見させる序奏が置かれています。

オペラの要素を含み、華やかでかつ軽妙な曲想を持ちあわせたモーツァルト後期の名作を、ぜひお楽しみください。

歌劇「セビリアの理髪師」序曲 (G. パイジェッロ)

《セビリアの理髪師》序曲はパイジェッロがエカチェリーナ2世の宮廷に仕えていた時代に作られたボーマルシェの戯曲に基づいたオペラの序曲です。1782年サンクトペテルブルク初演(台本はペトロセッリーニ)、ヨーロッパ再演はナポリで1787年。Theatre an der Wienのプログラムには1782/1787と記載されています。

このオペラの後に発表されたモーツァルトの作品《魔笛》《フィガロの結婚》《ドン・ジョヴァンニ》にある音楽の断片が聴こえます。つまり、《セビリアの理髪師》はモーツァルトの歌劇《フィガロの結婚》の前段にあたる物語とってよいでしょう。

交響曲第99番 変ホ長調 Hob.I:99 (F.J. ハイドン)

交響曲第99番は、ハイドンが1793年にウィーンで作曲した4楽章からなる交響曲です。第2期ザロモン交響曲と呼ばれるハイドン最後の曲群のひとつで、当然ながらハイドンの到達した高見を示す普及の作品のひとつです。

円熟味が増しているだけでなく、過去の作品と比べ明らかにスケールアップしています。また、99番はハイドンがクラリネットを取り入れた最初の交響曲であり、豊かな色彩の楽器が加わったことも一役かっています。

愛称がついていないので、他の曲より演奏の機会が少ないですが、聴く人を興奮させてやまない素晴らしい楽曲です。

